

実践報告

少人数による習熟度別クラスでの 「実習の記録」の指導の実際と効果

青山 佳代・森山 雅子・富貴田 智子

A Study of Effects on Small Track Classes:
Evaluating the track system in the guidance of childcare practice
focused on the recording of activities

AOYAMA Kayo, MORIYAMA Masako, FUKITA Tomoko

はじめに

2010（平成22）年3月にされた「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」では、改正の基本的な考え方の一つとして、「保育現場の実情を踏まえ、実践力や応用力を持った保育士を養成するため、実習や実習指導の充実をはかり、より効果的な保育実習にすることが必要」とされた。具体的には、「保育実習における事前事後指導の充実により実習における学びを強化させ、3回の保育実習のそれぞれに実習指導を行う」こととし、「保育実習Ⅰ」4単位と「保育実習指導Ⅰ」2単位、選択必修科目である「保育実習ⅡまたはⅢ」にも「保育実習指導ⅡまたはⅢ」の1単位が加わることになった。つまり、保育士養成校における実習指導がより重視されることとなった。

保育実習指導Ⅰでは、①保育実習の意義・目的を理解すること、②実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にする、③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けて課題や目標を明確にするといった目標が掲げられている（傍点筆者）。そして保育実習指導Ⅱ又はⅢでは、①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する、②保育実習や既習の教科目やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する、③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する、④保育士の専門性と職業倫理について理解する、⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にするという目標が掲げられている（傍点筆者）。

これらの目標のもと、保育士養成校では、事前指導として、実習の心構え（保育所長による講話も含む）や、実習に参加するための個人票の作成方法や、実習の記録（＝実習日誌）の書き方や、指導案の作成方法、そして模擬保育などを行い、実習に備えている。

とりわけ、学生が困難を抱えている実習指導の内容は、実習の記録である。上述した保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ又はⅢの目標の中でも、ほんの少しではあるが「記録」という文言が挙げられている。目標の文言としては、たった1単語ではあっても、保育実習において、「記録」は広範囲の作業内容となっている。「実習日誌さえなければ、いつまでも実習をしたい」とか、「実習日誌が苦痛すぎて実習が辛い」と言ったコメントは、多くの学生から漏れ聞こえてくる。

そこで、本報告では、愛知江南短期大学の実習指導における「実習の記録」の指導方法について取り上げる。具体的には、実習指導を担当している教員グループである実習委員会が2016年度から導入した少人数による習熟度別クラスでの記録の指導方法について論じる。

1. 「実習の記録」の指導について

保育実習を行う場合、実習生は必ず実習の記録を行う。一般的にその記録を行う書類は、「実習日誌」と呼ばれる。2018年4月に一部が改正された厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」のなかの「保育実習実施基準」の第3の5においても、「実習施設の実習指導者が毎日実習記録を確認し、指導内容を記述しなければならない」とある。以下に掲げた表1に示されていることを達成するために、つまり、実習施設の実習指導者が有意義な指導を行うことができるように、保育士養成校としては、学生が「実習の記録」が書けるように指導を行う必要がある。保育士養成校では実習前後にしっかりと「実習の記録」の指導をしなければならないのである。

表1 保育実習実施基準 第3 実施施設の選定

<p>保育実習実施基準</p> <p>第3 実施施設の選定等</p> <p>1 指定保育士養成施設の所長は、実習施設の選定に当たっては、実習の効果が指導者の能力に負うところが大きいことから、特に施設長、保育士、その他の職員の人的組織を通じて保育についての指導能力が充実している施設のうちから選定するように努めるものとする。</p> <p>特に、保育所の選定に当たっては、乳児保育、障害児保育及び一時保育等の多様な保育サービスを実施しているところで、総合的な実習を行うことが望ましいことから、この点に留意すること。</p> <p>また、居住型の実習施設を希望する実習生に対しては、実習施設の選定に際して、配慮を行うこと。</p> <p>2 指定保育士養成施設の所長は、児童福祉施設以外の施設を実習施設として選定する場合に当たっては、保育士が実習生の指導を行う施設を選定するものとする。なお、その施設の設備に比較的余裕があること、実習生の交通条件等についても配慮するものとする。</p> <p>3 指定保育士養成施設の所長は、教員のうちから実施委指導者を定め、実習に関する全般的な事項を担当させこととし、また、実習施設においては、その長及び保育士のうちから実習指導者を定めるものとする。これらの実習指導者は、保育実習の目的を達成するため、指定保育士養成施設の実習指導者が中心となって相互に緊密な連絡をとるように努めるものとする。</p> <p>4 指定保育士養成施設の実習指導者は、実習期間中に少なくとも1回以上実習施設を訪問して学生を指導すること。なお、これにより難しい場合は、それと同等の体制を確保すること。</p> <p>5 指定保育士養成施設の実習担当者は、実習期間中に、学生指導した内容をその都度、記録すること。また、実習施設の実習指導者に対しては、毎日、実習の記録の確認及び指導内容を記述するように依頼する等、実習を効果的に進められるよう配慮すること。</p>
--

次に、一般的に実習日誌に記載されている項目例を以下の表2に示す。

表2 実習日誌に記載する項目例

	項目	内容
実習開始前に記録しておく事項	表紙	実習名、実習施設名称、実習期間、所属養成校名、氏名など
	保育所の概況	施設名、設置主体、所在地、施設長名、実習指導者名、保育方針・保育目標・特色、沿革など 児童数、職員数、クラス（クラス名、児童数、担任保育者数）、その他の職員構成
	オリエンテーションの内容	実習時間、配属クラス、期間中の活動や行事、実習指導の進め方、実習日誌の提出方法、持ち物や服装、その他実習先に応じた内容
	実習の目的・ねらい	実習の目的・ねらい、自分で立てた実習に対する日々の目標
	実習計画表	実習期間中の毎日の活動や行事、実習目標や内容、その他
実習期間中に記録する事項	保育所の環境	保育所全体（園舎および園庭）の環境図
	(日々の) 実習の記録	月日、曜日、天気、クラス名と年齢、担任保育士、児童数（出欠）、日々の実習生の目標 生活の流れや保育の展開（子どもの生活のする姿やそれに対応した保育士の関わりや援助、実習生の動きや気づき、環境構成の図など） 実習生の実習目標や保育の実際に対応した考察、担任保育士または実習指導者からの講評
	指導計画	部分実習・責任実習、のための作成した指導計画、教材研究などの資料
	保護者支援、地域子育て支援、地域連携や関係機関との連携	保護者支援、地域子育て支援、地域連携や関係機関との連携について、観察や実際の関わりによって理解したこと
実習終了後に記録する事項	実習の振り返りと今後の課題 総評	実習終了後に実習全体を振り返って、学んだ点や見いだした課題、今後取り組みたい事項やそのための学習計画などを整理して記入し、総評を受ける

一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）「保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2」より転記

実習日誌は、表2にあるように、「実習開始前に記録しておく事項」、「実習期間に記録する事項」、そして「実習終了後に記録する事項」の3つの部分から構成されている。

この3つの部分のうち、学生が困難を抱えているのは「実習期間に記録する事項」である。この部分は、その日1日の生活の流れと、子どもと保育者の活動、自らの実践のふりかえりを記録する。記録方法は、養成校や実習園によって異なっているが、時間の経過に沿って時系列で記録する方法や、エピソードを記録する方法、子どもの具体的な姿に対応させながら保育士と実習生の行動や配慮事項を記録する方法、環境図を活用しながら記録する方法などが挙げられる。ちなみに本学は、時間の経過に沿って時系列で記録する方法を取り入れている。

「実習期間に記録する事項」における（日々の）実習の記録の中でも、表2内にゴシック体

で示した「生活の流れや保育の展開（子どもの生活のする姿やそれに対応した保育士の関わりや援助、実習生の動きや気づき、環境構成の図など）」の記録に学生は苦戦している。生活の流れや保育の展開（子どもの生活のする姿やそれに対応した保育士の関わりや援助、実習生の動きや気づき、環境構成の図など）」については、「実習開始前に記録しておく事項」のように、実習園から入手した資料に書かれている内容を転記すれば良いものでなく、書く内容の自由度が高い（＝書く内容の裁量が学生に任されている部分が多い）ので、教員にとっても指導に困難を感じる項目の一つである。さらに、個々の学生に、記録についての能力差があるので、一度に大人数の学生を指導するには無理がある。

2. 少人数による習熟度別クラスでの「実習の記録」の指導の導入

愛知江南短期大学では、2016年度から「実習の記録」の指導の方法を習熟度別からなる少人数クラスで実施することにした。それは、先述した通り、実習の際の作業の大部分を占める実習日誌の作成に学生が苦慮していたこと、さらに記録していくことに能力差があり、一度に70～100人の大人数の学生を対象として指導することに困難を感じ始めていたからである。そのために、同じ能力の学生同士が少人数で学び合う習熟度別クラスで指導を試みることにした。

本学では、2（長期履修クラスは3）年間で5回の実習を実施している。

- ① 1年生6月：付属幼稚園での教育実習（長期履修クラスは2年生6月）〔1週間〕
- ② 1年生の1月：保育実習Ⅰ（保育園）〔2週間〕
- ③ 1年生2～3月：保育実習Ⅰ（施設）〔2週間〕
- ④ 2年生6月：保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ（長期履修クラスは3年生6月）〔2週間〕
- ⑤ 2年生9月：幼稚園での教育実習〔3週間〕となっている。

つまり、本学の場合、保育実習Ⅰ（保育園）が終わると、次の保育実習Ⅱまでに約半年間の余裕がある。2015年度以前は、この半年間の実習指導にはビデオカンファレンスを行ったりして、記録よりも、子どもとの関わりについて学びを深めていたのであるが、やはり、学生にとっても、実習担当の教員にとっても「実習の記録」は重い課題として残っていた。

それぞれの実習が終わると、各園から実習の評価が返却されてくる。その評価を実習委員会で検討してきた。検討の結果として「実習の記録」については学生によって評価が大きく別れていた。しかも、評価が低い学生（＝C（劣っている）もしくはD（＝不可））が一定数いることが問題であった。

そこで、実習委員会の教員がそれぞれ少人数クラスを担当し、で実習の記録の指導についてじっくりと取り組むことにした。

本学では、実習委員会に属する教員が実習指導を担当している。右図1に示すように、本学で実施される全ての実習に実習委員の教員が関わっているので、卒業までに求められる5回の実習状況について、実習種別にかかわらず、実習委員会の教員が全ての学生の実習の状況や成績を把握している。他の養成校では、実習種別毎で実習指導が分断されていることが多いので、

その点で言えば、全ての実習種別の実習指導を実習委員会の教員が行なっている点が本学の特色であり、強みと言える。

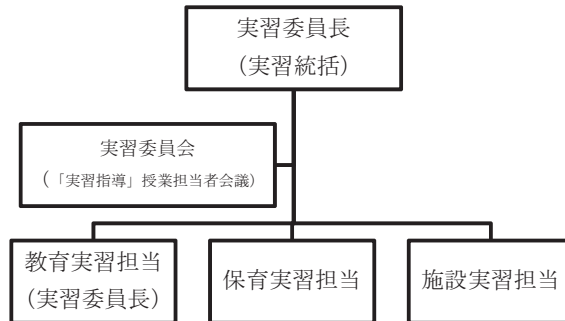


図1 愛知江南短期大学の实習委員会体制図

3. 少人数クラスによる「実習の記録」の指導

習熟度クラスの振り分けは、次の2点を基準に行った。

- ①保育実習Ⅰの実習園からの評価項目である「保育の記録」の成績
- ②実習委員会（＝図1の通り、実習担当教員3名からなる）において、全学生の「実習日誌」の記録の検討

つまり、保育実習Ⅰの実習先の評価だけではなく、日頃から学生と接している実習委員会の教員の全員が、学生が仕上げた保育実習Ⅰの実習日誌を丁寧に検討している。

①および②の検討結果をもとに、上位者からそれぞれA、B、Cクラスとして編成していった。それぞれのクラスは等分に配分することは求めない。2016年度の実施当初から、各クラスの配属の割合は、 $A < B < C$ となっている。つまり、本学の学生は実習の記録に苦手意識を持っている学生が多いという結果であろう。

習熟度別による「実習の記録」の指導は、保育実習指導の15回の授業回数のうち、4～5回程度実施している。

Aクラスは、実習の体裁や、日々の実習の記録についても、概ねよくできている。主な指導方法は、次の保育実習Ⅱに向けて、文章のより良い表現方法の追究を行なっている。主にペアワークで実施されている。ペア同士で保育実習Ⅰの実習日誌を見せ合い、より良い表現方法を高めている。

Bクラスでは、このクラスの中である学生数名の実習日誌を取り上げ、日々の「保育の記録」について、クラス全体で検討会を行っている。

もっとも配属人数の多いCクラスは、「日々の保育の記録」の内容云々よりも、まず“公文書としての「実習日誌」ときちんと書けるようになる”を目標として、誤字脱字の訂正、定規をきちんと活用してまっすぐ罫線を引けるようにすること、適切な欄（環境構成の図、子ども

もの生活のする姿やそれに対応した保育士の関わりや援助、そして実習生の動きや気づきなどに適切な項目を記述できるようになることを指導している。また、Cクラスの学生は、一つの文章を長く書きすぎる傾向にあり、読み手（＝保育園の実習指導者）に負担をかけないように、一つの文を短く、そして情報を多く盛り込まないように、一文一意を心がけて文章を書くように指導を行なっている。

3.1 保育実習における「実習の記録」について

先に示した通り、保育実習指導Ⅰと保育実習指導Ⅱの目標には「実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解すること」（保育実習指導Ⅰ）、「保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する」（保育実習指導Ⅱ）とある。

しかしながら、具体的な指導項目や指導内容については、養成校や実習園の創意工夫に任されている。実習日誌に関する多くのテキストが、様々な出版社からも発行されているが、実際のところは養成校も実習園も手探りで指導しているのが実情である。

本学の実習日誌における「実習の記録」の部分は、図2のようである。とりわけ、学生は「実習生の気づき」の記述に対する苦手意識が強い。実は、実習園の指導者にとってもどうやって指導したら良いか、一番戸惑う箇所なのである。しかし、「実習生の気づき」の部分は、実習生として何を思い、何を考えているかを、指導を担当している保育者へ伝える最も重要な項目でもある。いわば、この箇所を含めた「実習の記録」は、実習中の最大のコミュニケーションツールとも言えるのである。つまり、この箇所を中心として、「実習の記録」を整えていくことが、実習を有意義なものとするのである。

(実習第 日目)		検印	園長	主任	担任	
月	日	曜日	天候	実習生名		
実習組名		(歳児)	在籍数	出席数		
			男 名 女 名	男 名 女 名		
週のねらい						
主 な 活 動		活動のねらい				
本日の実習生の目標						
時間	環境構成	子どもの活動	保育者の援助	実習生の気づき		

図2 愛知江南短期大学の実習日誌「実習の記録」部分

3.2 指導による変化

実際に、習熟度別で指導を行うことにより、以下のような良い変化が見られるようになった。以下に保育実習Ⅰ終了後に、Cクラスで指導を受けた学生の実習の記録を示す(図3および図4)

(実習第 8 日目)		検印	
1月23日 火曜日		天候 晴れ	
実習組名	(2歳児)	在籍数	出席数
		男12名 女6名	男9名 女5名
遊のねらい	新しいあそびに興味を示して意欲的にあそぶ		
主な活動	公園であそぶ	活動のねらい	あそび方を知り興味を示してあそぶ
本日の実習生の目標			
楽しんであそぶように、子どもの動きと視野を広く持て見守る			
時間	環境構成	子どもの活動力	教師の援助・指導のねらい
8:30	(室内) Dye Tape	○川尻公園を回る ○身の回りの準備をする ○公園あそびを始める(室内) ○公園あそびを本園と話し合う	教師の援助・指導のねらい 保護者とコミュニケーションを取る。 子ども全体が見えるように、座って様子を見る。
		実習生の気づき	

図3 【指導前】学生Aの保育実習Ⅰ(保育園)の実習の記録(8日目)

(実習第 8 日目)		検印	
1月23日 火曜日		天候 晴れ	
実習組名	(2歳児)	在籍数	出席数
		男12名 女6名	男9名 女5名
遊のねらい	新しいあそびに興味を示して意欲的にあそぶ		
主な活動	公園であそぶ	活動のねらい	あそび方を知り興味を示してあそぶ
本日の実習生の目標			
視野を広く持て、子どもの動きを見守る			
時間	環境構成	子どもの活動力	教師の援助・指導のねらい
8:30	(室内) Dye Tape	○川尻公園を回る ○身の回りの準備をする ○公園あそびを始める ○公園あそびを本園と話し合う ○実習生の動きと視野の周りにいる子どもを確認し、安全に遊ばせるように見守る。	教師の援助・指導のねらい 保護者とコミュニケーションを取る。 子ども全体が見えるように、座って様子を見る。 子どもの動きと視野の周りにいる子どもを確認し、安全に遊ばせるように見守る。
		実習生の気づき	

図4 【指導後】学生Aの保育実習Ⅰ(保育園)の実習の記録(8日目をやり直したもの)

図3から図4の変化について検討してみると、真っ直ぐに字を記述することを心がけたことにより、全般的に読みやすい実習日誌になった。また環境構成の図についても、定規をより丁寧に活用したことで、綺麗な図になっていることもわかる。また「実習生の気づき」についても、全く気づきのポイントがわからず書けなかったのが、指導後には、「教師の援助・留意点」の内容を勘案しながら、「実習生の気づき」へと記述を展開していったことがわかる。また、指導前のものよりも、指導後の方が、「教師の援助・留意点」の内容に具体性が増している。この学生は半年後の保育実習Ⅱでは、保育の記録に関して高い評価を得ることができた。

4. 習熟度別クラスによる指導に対する学生からの反応

「実習の記録」の指導をする際には、きめ細やかに少人数で実習日誌の記録をした方が、教育的効果が高いのは自明である。けれども、我々実習担当の教員は、不安であった。なぜなら、実習日誌の評価の優劣でクラスを編成していることが、学生にあからさまにわかってしまうからだ。

けれども、実習委員会の不安とは裏腹に、学生は習熟度別で実習の記録の指導を受けることに好意的であった。習熟度別で実習の記録の指導を行なったことに対して、学生にコメントを求めたところ、「少人数クラスに分けたことで、自分のレベルに合った指導を受けることができた」「下位のクラスであっても、仲間と同じ場所で躓いていることがわかり、できないのは自分だけではないと感じることができた」「少人数クラスだったので、気兼ねなく質問することができた」といったコメントが出てきた。

さらに、2017年度に保育実習Ⅱを終えた学生に対して、次の2項目からなるアンケートも試みた。回答数は68（回収率は100%）である。項目は次の2点である。

①「実習日誌の指導について少人数クラス別に行ってよかったと思うか。」

②「少人数クラス別の日誌の指導を受けて（保育実習Ⅱでは保育実習Ⅰより）実習日誌が書けるようになったと思うか。」

①の問いに対しては「よかった」が67件、「良くなかった」が1件であった。次に、②の問いに対しては、「書けるようになった」が9件、「まあまあ書けるようになった」が53件、「あまり書けなかった」が4件、「ぜんぜん書けなかった」が1件、無回答が1件であった。さらに追加で設けた自由記述では、以下のようなコメント得ることができた。「保育実習Ⅱでは、『保育者の援助』のところがうまく書けていると保育園の先生から言っていた。」「良い例を先生が授業のなかで挙げてくれたので、それを参考にして書くことができた。前よりも子どもの姿を見て書くことができた」、「それまでは『保育者の援助』と『環境構成』がごちゃまぜ（ママ）になっていたが、分けて書けるようになった。」「『実習生の気づき』の書き方がよく分かった。」「『実習生の気づき』の部分、単に見たことではなく自分の（内面からの）気づきとして書けるようになり、保育園で先生に認めてもらえた。」などのコメントがあった。このようにみると、少人数クラスによる実習日誌の指導は、学生にとって意義のあるものであったと解釈することができよう。

おわりに

本学で実施している少人数による習熟度別クラスでの「実習の記録」の指導は、学生からも好意的で、ある程度の教育的効果があることが認められた。少人数で、丁寧に授業を実施することにより、教員も学生の躰きをこまめに確認することができた。

今後、実習指導における「実習の記録」をより豊かなものにするためには、2019年4月からの保育士養成課程の改正の特徴にあるように、「保育士養成校と実習施設の間で、実習計画の内容（方針、記録、評価等）を共有すること」を重視していくべきであろう。

実習指導は、厚生労働省からの基準を遵守しながらも、各養成校や実習園がそれぞれの教育方針や保育方針を大切しながら創意工夫を発揮しながら、実習生が養成校で学んだ基礎的理論と技術を実習園で統合できる方法を検討していくべきと考える。

【参考文献】

青山佳代・森山雅子（2015）「実習指導における「見える化」教材の導入の経緯と成果—愛知江南短期大学における過去4年間の実習評価の分析から—」『愛知江南短期大学 紀要』第44号。

河田凌子・青山佳代・伊藤早苗（2017）「保育園実習指示書」の開発と実際：現場の保育者にとって意義ある実習指導となるためには」『愛知江南短期大学 紀要』第46号。

一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成』、中央法規。

増田まゆみ・小櫃智子編著（2018）『保育園・認定こども園のための保育実習指導ガイドブック』、中央法規。